

<報告事項1>

事業報告

自 平成 24 年 7 月 1 日

至 平成 25 年 6 月 30 日

1. 事業の概況

公益財団法人日本バレーボール協会から独立法人化後、7回目の定時社員総会を平成 24 年 9 月 24 日に開催致しました。理事及び監事全員がこの社員総会終結の時をもって、任期満了により退任することになりました。Vリーグ機構役員推薦委員会から候補者の推薦があり、理事 5 名が再任、新たに 7 名が選任され就任致しました。又、監事につきましては、2 名が再任され就任致しました。

社員総会終了後の理事会において、木村憲治を代表理事会長に、井原実を副会長に選出し、新体制をスタートさせました。

この社員総会において、JAぎふリオレーナ(ぎふ農業協同組合)の入社が承認されました。又、三洋電機レッドソア(三洋電機株式会社)、健祥会レッドハーツ(社会福祉法人健祥会)、Befco ビービースターズ(株式会社栗山米菓)の退社が同時承認されました。

毎年一般から公募して決めているVリーグのキャッチコピーについて、2012/13 シーズンは、『Vの輪～想いの先に道がある～』と決定致しました。

V・プレミアリーグの男子大会は平成 24 年 11 月 3 日、女子大会は 11 月 17 日に開幕し、以後順調にレギュラーラウンド、ファイナルラウンドの日程を消化し、女子大会は平成 25 年 4 月 13 日、男子大会は 4 月 14 日に全日程を終了致しました。

V・チャレンジリーグの女子大会は平成 24 年 11 月 10 日、男子大会は 12 月 1 日に開幕、以後順調にリーグ日程を消化し、女子大会・男子大会ともに平成 25 年 3 月 17 日に全ての日程を終了致しました。

さらに、平成 25 年 4 月 6 日～7 日の日程にて V・チャレンジマッチを行い、その結果に基づき理事会に於いて審査の結果、勝利した女子チームの日立リヴァーレ、男子チームのジェイテクト STINGS の V・プレミアリーグ昇格を承認致しました。

その後平成 25 年 4 月 21 日の日韓 V. LEAGUE TOP MATCH 終了をもって全ての日程を消化し、無事 2012/13 シーズンを終了致しました。

以下、個別事業の活動概況を、メイン事業の V・プレミアリーグ及び V・チャレンジリーグを中心に詳述致します。

(1)V・プレミアリーグ

2012/13 シーズンは、女子大会・男子大会ともに平成 24 年 8 月ロンドンオリンピックの終了をうけて、前年のレギュラーラウンド 8 チーム 3 回戦総当たりから 4 回戦総当たりリーグ戦のレギュラーラウンドとファイナルラウンドの競技形式に戻し、レギュラーラウンド 112 試合、ファイナルラウンド 8 試合の計 120 試合、女子大会・男子大会計 240 試合を延べ 72 会場(女子 37 会場、男子 35 会場)で開催する計画にて、男子大会は平成 24 年 11 月 3 日、女子大会は 11 月 17 日に開幕致しました。

男子大会は平成 25 年 3 月 29 日～31 日にセミファイナル、4 月 14 日に優勝決定戦・3 位決定戦を行

い、女子大会は平成 25 年 4 月 5 日～7 日にセミファイナル、4 月 13 日に優勝決定戦・3 位決定戦を行い、約半年間にわたる長丁場のシーズンを終了致しました。

今シーズンも、Vリーグ機構が目指すものとして掲げたビジョン、「ファン重視」「地域に密着」「常に発展」「世界に挑戦」「成果の拡大」に沿った諸施策や社会貢献活動を推進致しました。主なものとしては、次のとおりです。

① 大会キャッチコピー

毎年一般から公募して決めているVリーグのキャッチコピーについて、2012/13シーズンは、『Vの輪～想いの先に道がある～』と決定致しました。Vの輪とは、リーグに携わるチーム・選手をはじめ、ファンの方々、リーグ運営に携わる全ての関係者など、人と人とがバレーボールを通して一つになることで道が開けていくことを意味しています。そこには未来を見据えた、様々な想いが込められています。

② 大会広報活動

テレビ放送に加え、ドワンゴ社の「ニコニコ動画」によるインターネット動画配信の生放送を実施し、V・プレミアリーグ開幕記者会見と女子大会 24 試合、男子大会 20 試合を生中継にて配信、その視聴者数は 100 万人を突破致しました。

2012/13V・リーグ開幕記者会見 視聴者数 : 13,864 人

V・プレミアリーグ女子 視聴者数 : 576,833 人

V・プレミアリーグ男子 視聴者数 : 426,231 人

③ テーマソングおよびアンセムの制作

Vリーグテーマソング「View To The Top」およびVリーグアンセム「The Voice Of Glory」を新たに制作し、V・プレミアリーグ及びV・チャレンジリーグ試合会場にて、積極的に活用致しました。

④ オフィシャル応援アンバサダー

若狭みなとさんを 2012/13V リーグオフィシャル応援アンバサダーに任命し、各会場をまわって、今シーズンの V リーグオフィシャル応援ソング「光れ～Circle of smile～」を歌って会場を盛り上げました。

⑤ 普及とファンサービス

(I) 北から南まで全国延べ 72 会場での開催

(II) キッズエスコートの全会場での実施

(III) 大会記念ボードなど会場内外演出の見直しと充実

(IV) サイン入りミニボールの投げ込み

(V) 東京オリンピック招致モニュメント(ロンドン五輪銅メダル獲得記念写真)を設置

⑥ ファイナルラウンドの充実

(I) レギュラーラウンド 1 位チームへの賞金

(II) セミファイナルラウンドの女子大会(千葉県)、男子大会(愛知県)での開催

(III) 優勝決定戦・3 位決定戦を女子大会・男子大会(東京都)を同一会場で開催

(IV) セミファイナル、優勝決定戦・3 位決定戦の前日記者会見

(V) 優勝決定戦・3 位決定戦会場におけるミックスゾーン設置

(VI) ファイナルにおけるワンデイプログラムの発行

(VII) 特別ステージを設営しイベント、表彰式、授与式の実施

- (Ⅷ) ファン参加型のイベント実施
- ⑦ ホームページ等によりファンサービスの充実と盛り上げ
 - (Ⅰ) ホームページの有料コンテンツの充実(月間登録者数が過去最高を記録)、画像情報強化など実施
 - (Ⅱ) ホームページの迅速な情報発信
 - (Ⅲ) ホームページの特設サイトの拡充
 - (Ⅳ) JVISスーパーバイザー制度充実
 - (Ⅴ) プレス用見どころ発信
 - (Ⅵ) メルマガの充実
- ⑧ ホームゲームの充実
 - (Ⅰ) レギュラーラウンド女子大会・男子大会ともに、全 112 試合中 44 試合でホームゲーム実施
 - (Ⅱ) 計画的な運営(ホームゲーム計画書の提出の義務化)とイベント充実の促進
 - (Ⅲ) 各チームでの取り組みの充実
- ⑨ その他
 - (Ⅰ) テレビ放送は、これまでのNHK、GAORAに加え、BSフジに放映して頂きました
 - プレミアリーグ女子大会 BS放送 17 試合 CS放送 20 試合
 - プレミアリーグ男子大会 BS放送 13 試合 CS放送 10 試合
 - (Ⅱ) ローカルテレビ放送は、新たにテレビ愛知が加わり多数の放送局に放映して頂きました
 - プレミアリーグ女子大会 ローカル局(地上波) 7 試合

入場者数を見ると、男子・女子大会合計で 295,637 人(対前年 53,100 人増)、男子大会は 123,121 人(対前年 21,750 人増)、女子大会では 172,516 人(対前年 31,350 人増)となりました。今シーズンはレギュラーラウンドが 4 回戦総当たりに戻ったため入場者総数は増加したものの、1 開催日平均では、女子が 2,875 人(対前年 194 人減)、男子が 2,052 人(対前年 60 人減)でした。この実績はこれまでの減少傾向に歯止めがかかっていない状況を示しています。後述の増客プロジェクトを含め様々な施策を考え、実行していかなければならない課題が改めて浮き彫りになりました。

(2)V・チャレンジリーグ

2012/13 シーズンのV・チャレンジリーグは、女子大会は参加 10 チーム、男子大会が参加 11 チームによる 2 回戦総当たりリーグ戦とし、女子 90 試合、男子 110 試合を計画、女子大会は平成24年 11 月 10 日、男子大会は 12 月 1 日に開幕し、男女大会とも平成 25 年 3 月 17 日までの日程で開催致しました。

V・チャレンジリーグの競技力強化と大会の運営を、V・プレミアリーグ大会と同程度の質的向上をめざし、運営の改善、効率化を年々行なってきましたが、今シーズンはさらにこれを推し進め、さらにホームタウンゲームの試合数を増やし、地域密着化を図りました。

具体的には、選手個々のレベルアップを図り、派遣役員体制の見直し、競技力強化、競技運営強化に努め、サイン入りミニボールの投げ込みやキッズエスコートなど、ファン対策・集客アップにつながるイベントの標準化を進めてまいりました。

入場者数は、男子・女子大会合計で 73,249 人(対前年 2,720 人減)、女子大会は 49,141 人(対前年 10,378 人減)、男子大会は 24,108 人(対前年 7,658 人増)、となりました。全体での減少要因は、女子大

会の実質 2 チーム減による 42 試合減少によるものです。男子大会は試合方式の変更に伴い 30 試合増えたことにより観客数が増加しました。1 開催日平均では、女子が 1,117 人(対前年 54 人増)、男子が 670 人(対前年 122 人増)でした。今後も、今年度実施した対策を継続、多方面から要因の分析を加え、さらなる観客動員を図ってまいります。

(3) 社会貢献活動

① 東日本大震災への復興支援

(I) 「V の輪」缶バッチキャンペーンを展開、購入頂いた缶バッチと共に撮影された写真を送っていた
だき、写真をもとに復興支援モニュメントを製作し、プレミアリーグ優勝決定戦会場及び日韓 V.
LEAGUE TOP MATCH 会場で披露掲示致しました。

販売利益金 295,890 円を東日本復興支援に活用させていただきます。

② 骨髄バンク支援活動の継続

(I) 大会会場における啓発活動(全会場でリーフレットを配布)

(II) ファイナルでのブース展開及び会場内にて、選手による募金活動を実施し、626,630 円を骨髄移植推進財団に寄付致しました。

(4) バレーボール教室の開催等

① Vリーグ機構は年間を通して、バレーボール教室の開催(チームによるバレーボール教室及び JVA 指導普及委員会の行なう「Vリーグ選手と一緒にバレーボール教室」)や、平成 15 年度から始めた「ジュニア育成支援活動」など、ジュニアの育成、地域に密着した社会貢献型の活動にも引き続き力を入れてきました。V・プレミア、V・チャレンジ両リーグのチームが主催したバレーボール教室は、全国各地で延べ 740 日開催し(昨年度比 133%)、小学生から家庭婦人まで 50,867 人の生徒(昨年度比 88%)を迎え、盛況のうちに開催し好評を博しました。

② Vリーグ機構は、元 V リーガーOB・OG の組織化を進め、トップリーグで培った技術及び経験を生かし、バレーボールの普及及び発展のために、バレーボール教室を全国各地に広める活動「V・明日夢プロジェクト」を、平成 24 年 11 月より開始しました。

今年度は、全国 11 会場において 16 日開催し、参加者は延べ 1,335 人でした。

(5) 国際交流

① 日韓 V.LEAGUE TOP MATCH

日韓 V. LEAGUE TOP MATCH は、外務省、文部科学省、観光庁、仙台市等の後援を得て、平成 25 年 4 月 21 日東日本大震災の被災地、宮城県仙台市のゼビオアリーナ仙台にて開催いたしました。リーグ戦を勝ち抜いた優勝チーム同士の戦いということで白熱した試合となり、男子・女子とも日本チームが優勝を果たしました。当日は、雪が舞う悪天候にも拘わらず満席となり 3,701 名の有料入場者がございました。また、被災地 3 県から 312 名の小学生・中学生・高校生を招待致し、NHK-BS1 にて 5 時間強生中継して頂きました。

また、大会前々日には全選手が、被災地閑上(ゆりあげ)地区を訪問しました。

(6) 研修会・会議・各種委員会活動

① 増客プロジェクト研修会

(Ⅰ)増客プロジェクト研修会

平成 24 年 9 月 2 日に増客プロジェクト研修会を開催し、入場者数減少に係わる問題点を各チーム、各都道府県バレーボール協会と共有し、人気低迷の打開策、増客施策等を協力しながら、中長期的スパンで推進することに致しました。

(Ⅱ)観戦者を対象にしたアンケートの実施

今年度は東京のファイナル会場にて実施致しました。

② 監督研修会・JURY 会議・レフェリークリニック

監督研修会を平成 24 年 10 月 13 日、14 日に開催し、重点テーマを「選手育成と監督及び選手のメディア対応」とし、多くのゲストスピーカーを招き充実した研修会となりました。

同一日程同一会場の別室において、2012/13 シーズン開幕に向けた JURY 会議を開催致しました。14 日午後からは全チームの監督と JURY ならびに特別審判が一堂に会し、2012/13 シーズンで適用するルールの確認やユニホームチェックを行う、レフェリークリニックを開催致しました。

③ 2012/13Vリーグ開催地・チーム合同会議

平成 24 年 9 月 1 日に 2012/13 シーズンに向けた、Vリーグ大会の開催に際して最終確認を行う会議を、大会関係者約 170 名が集まり開催致しました。

④ キャプテンミーティング

Vリーグ機構は初の試みとして、プレミアリーグ、チャレンジリーグ全チームのキャプテンが集合して(一部、欠席並びに代理出席あり)ミーティングを平成 25 年 6 月 15 日に開催いたしました。

このミーティングは①平成 25 年 6 月 1 日から施行したコンプライアンス規程並びに関連規程の周知徹底②ファンサービス意識の向上とメディアを通じた情報発信のスキルとノウハウの向上を目的に開催致しました。

⑤ コンプライアンス委員会

Vリーグ機構におけるコンプライアンスに関する意識向上を図るとともに、コンプライアンスを円滑かつ効果的に実施するための方針、体制、啓発及び課題発生への対応、点検を行います。

同委員会は平成 25 年 4 月 25 日の Vリーグ機構コンプライアンス規程制定に伴い発足、同規程は 6 月 1 日施行致しました。

今後、Vリーグ機構はコンプライアンスの推進を当機構運営の重要課題の一つに掲げ、法令や当機構の定款・規約等の遵守に取り組んでまいります。

⑥ ステアリングコミッティ

我が国バレーボール界トップリーグである Vリーグがより多くの人に愛され続けるために、そして、日本リーグ発足から 50 回目を迎える記念大会に繋げるために、中期的な視座に立ったリーグ改革の検討を行うべく今年度発足致しました。3 回の全体会議を行ったのちに、運営幹事を中心とした分科会を発足させ議論を深める活動を行いました。

⑦ マーケティングコミッティ

Vリーグの今後のマーケティングについて議論し、スポンサー並びに広報・メディア対策の方向性、有効な方法について実行を行うべく、今年度発足致しました。

⑧ 20周年記念準備委員会

1994/95 シーズンにリーグ名称を日本リーグからVリーグに改めて20回目を迎えます、2013/14シーズンをVリーグ大会20周年とし、二世代にわたるファンを掘り起こし、新たなファンを獲得し次の20年に繋げるための各種イベント・プロモーションを行うべく今年度発足致しました。次年度に向けた企画立案を行いました。

(8)助成金

Vリーグ機構は、我が国における国際競技力の向上を期すための国の助成金制度「競技強化支援事業助成金(国庫基金)」を制度開始の平成15年度から毎年交付を受けております。さらに、「スポーツ振興くじ助成金」として、将来性を有する競技者発掘及び育成活動のための支援事業及びスポーツ教室・スポーツ大会開催事業としての助成金を、独立行政法人日本スポーツ振興センターより交付を受けました。

平成24年度については、両助成金で40,925千円の交付金を受け、マネジメント機能強化、研修会やトップリーグ活性化、チャレンジリーグの強化育成・活性化及び日韓V. LEAGUE TOP MATCH開催のために活用いたしました。その事業規模は総額96,127千円となり、当機構の運営、事業推進に大きな成果を出しました。

今後とも制度の主旨に沿った有効活用を心がけ、競技力向上とリーグ活性化に努めてまいります所存です。

(9)協賛について

今シーズンもプレミアリーグ・日韓V. LEAGUE TOP MATCHに対して、従来からの企業様、今期より新たに数社の企業様から多額の協賛をいただくことができました。

協賛いただきました各企業様と、お世話になりました株式会社電通様に厚くお礼申し上げます。

以上のようなVリーグ機構の活動の成果を経営数値面で見ますと、試合数の増加(プレミアリーグがロンドンオリンピック終了後につき4回戦総当たり)により開催権譲渡金収入及び協賛金収入の増加もあり、事業収益は総額495,577千円(対前期98,527千円増)、費用については、日韓V. LEAGUE TOP MATCH開催費用増加もあり、総額は466,461千円(対前期87,456千円増)となりました。

経常利益は29,146千円(対前期10,839千円増)、当期純利益18,862千円(対前期9,467千円増)の増収増益となりました。

今後、我が国の景気も緩やかに回復基調に転ずることが見込まれる状況下、バレーボール界を取り巻く環境も改善するものと思われれます。Vリーグ機構としては、リーグ運営並びに主催大会の一層の活性化のために、財政の安定、充実に向け引き続き効率的な経営に取り組んでまいります所存です。

法人設立時に掲げた5つのビジョンの実現に向け、より開かれた組織運営と事業活動を継続して取り組むとともに、公益財団法人日本バレーボール協会をはじめ、都道府県バレーボール協会他関係諸団体との協力関係についてもより一層の緊密化を図り、社員各位の期待に応えてまいります所存です。

2. 社員の概況

*社員名、チーム名は平成 25 年 6 月 30 日現在 (順同)

社 員 名	チーム名	区分	基金の口数	基金の額 (円)
公益財団法人日本バレーボール協会			12	6,000,000
株式会社ウォーク	岡山シーガルズ	女子	1	500,000
サントリーホールディングス株式会社	サントリーサンバーズ	男子	1	500,000
株式会社デンソー	デンソーエアリービーズ	女子	1	500,000
東北パイオニア株式会社	パイオニアレッドウィングス	女子	1	500,000
東レ株式会社	東レアローズ	男子	1	500,000
	東レアローズ	女子	1	500,000
豊田合成株式会社	豊田合成トレフェルサ	男子	1	500,000
日本たばこ産業株式会社	JTサンダーズ	男子	1	500,000
	JTマーヴェラス	女子	1	500,000
日本電気株式会社	NECレッドロケッツ	女子	1	500,000
久光製薬株式会社	久光製薬スプリングス	女子	1	500,000
日立オートモティブシステムズ株式会社	日立リヴァーレ	女子	1	500,000
株式会社ブレイザーズスポーツクラブ	堺ブレイザーズ	男子	1	500,000
パナソニック株式会社	パナソニックパンサーズ	男子	1	500,000
一般社団法人上尾中央医科グループ協議会	上尾メディックス	女子	1	500,000
株式会社大野石油店	大野石油広島オイラーズ	女子	1	500,000
近畿クラブ	近畿クラブスフィーダ	男子	1	500,000
警視庁	警視庁フォートファイターズ	男子	1	500,000
株式会社ジェイテクト	ジェイテクトSTINGS	男子	1	500,000
医療法人青雲白鷺会三好内科・循環器科医院	大分三好ヴァイセアドラー	男子	1	500,000
大同特殊鋼株式会社	大同特殊鋼レッドスター	男子	1	500,000
一般社団法人つくばユナイテッドサンガイア	つくばユナイテッドSun GAIA	男子	1	500,000
医療法人社団天宣会	柏エンゼルクロス	女子	1	500,000
東京フットボールクラブ株式会社	FC東京	男子	1	500,000
トヨタ自動車株式会社	トヨタ自動車サンホークス	男子	1	500,000
トヨタ車体株式会社	トヨタ車体クインシーズ	女子	1	500,000
東京ヴェルディ 1969 フットボールクラブ株式会社	東京ヴェルディ	男子	1	500,000
富士通株式会社	富士通カワサキレッドスピリッツ	男子	1	500,000
KUROBEアクアフェアリーズ	KUROBEアクアフェアリーズ	女子	1	500,000
株式会社PFU	PFUブルーキャッツ	女子	1	500,000
NPO 法人阪神バレーボールコミュニティ	兵庫デルフィーノ	男子	1	500,000
NPO 法人エイティエイツバレーボールクラブ	仙台ベルフィーユ	女子	1	500,000
株式会社きんでん	きんでんトリニティーブリッツ	男子	1	500,000
東京トヨペット株式会社	東京トヨペットグリーンスパークル	男子	1	500,000
株式会社熊本サービスセンター	フォレストリーヴズ熊本	女子	1	500,000
グリーン・サポート・システムズ株式会社	GSSサンビームズ	女子	1	500,000
ぎふ農業協同組合	JAぎふリオレーナ	女子	1	500,000
合 計	(36 団体) (37 チーム)		49	24,500,000

3. 運営体制の強化

平成24年9月24日に開催した第7回定時社員総会において選任され、引き続き第8期第1回の理事会において、木村憲治を代表理事会長、井原実を副会長に選出し、新体制をスタートさせました。

(1) 役員一覧

平成25年6月30日現在

代表理事 (会長)	きむら けんじ 木村 憲治	昭和20年(1945年)7月19日生 第5期監事 第6期～第8期代表理事会長 (株)扇港電機顧問
理事 (副会長)	いはら みのる 井原 実	昭和22年(1947年)1月28日生 第4期～第8期理事(うち第6期～第8期副会長) 井原 実公認会計士事務所 所長
理事	みよし とおる 三好 徹	昭和22年(1947年)4月15日生 第2期～第8期理事 三好総合法律事務所 所長
理事	くぼた りゅういち 窪田 隆一	昭和38年(1963年)4月29日生 第6期～第8期理事 富士通(株)インテグレーションサービス部門事業推進統括 部長 富士通カワサキレッドスピリッツ 部長
理事	はやし たかひこ 林 孝彦	昭和34年(1959年)8月1日生 第6期～第8期理事 一般社団法人日本バレーボールリーグ機構 事務局長
理事	おかの みのる 岡野 實	昭和23年(1948年)3月18日生 第8期理事 (株)ウォーク GM 岡山シーガルズ GM
理事	かやしま あきら 萱嶋 章	昭和32年(1957年)10月4日生 第8期理事 久光製薬(株)鳥栖工場厚生部 部長 久光製薬スプリングス 部長
理事	さとう なおじ 佐藤 直司	昭和36年(1961年)11月7日生 第8期理事 グラントソントン太陽ASG税理士法人 執行役員パートナー
理事	しもやま たかし 下山 隆志	昭和24年(1949年)1月2日生 第8期理事 公益財団法人日本バレーボール協会 業務執行理事 国際バレーボール連盟 アジアバレーボール連盟 審判委員会委員
理事	みずかわ まつね 水川 松根	昭和34年(1959年)10月10日生 第8期理事 豊田合成(株)総務部 総務広報室 ボランティアセンター主担当員 豊田合成トレフェルサ GM
理事	やまのかわこうじ 山ノ川 孝二	昭和28年(1953年)1月7日生 第8期理事 日立オートモティブシステムズ(株) 専務取締役 日立リヴァーレ 部長
理事	よしはら ともこ 吉原 知子	昭和45年(1970年)2月4日生 第8期理事 国際武道大学女子バレーボール部ヘッドコーチ 公益財団法人日本オリンピック委員会 強化スタッフ
監事	たきもと のりあき 滝本 規明	昭和18年(1943年)12月4日生 第5期～第8期監事 サントリー(株) 社友
監事	はやの ようじ 早野 容司	昭和35年(1960年)3月3日生 第6期～第8期監事 (株)ジェイテクト販売促進部 部長 ジェイテクトSTINGS GM